

安心・安全

漆はもちろん、器の素材から全てが天然素材。その上、漆には天然の抗菌作用があり、子どもたちを守ります。

作法を学ぶ

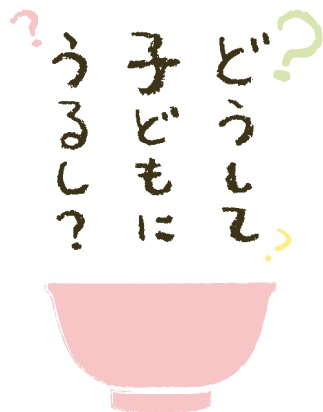
漆の器は熱が伝わりにくいので子どもでも持ちやすく、美しい所作で器を持つ事ができます。

五感を育てる

漆は「人肌に近い感触」と言われ、プラスチックなどにはない温かな質感は五感を刺激します。

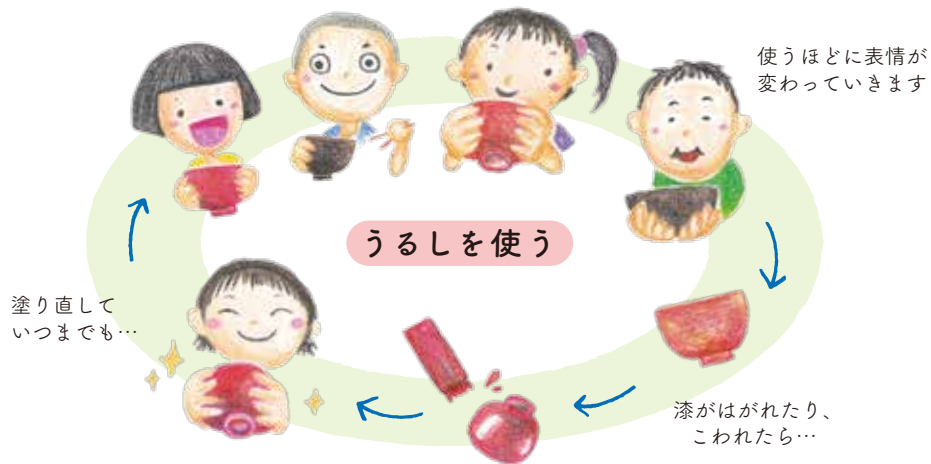
心を育む

ずっと使い続ける事ができるのでモノを大切に作る心や、モノや自然に感謝する気持ちを育てます。

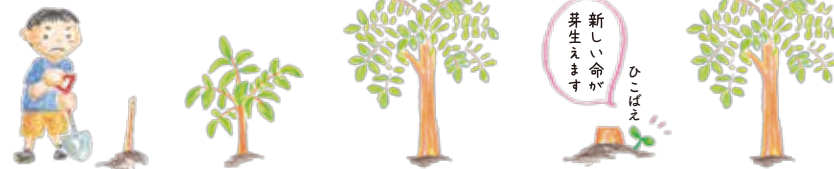


文化をつなぐ

漆を知って、漆の器を使う人が増えることで、漆の木を増やすことや、かき子さん、漆職人の技術、そこで使われる道具を次世代に残すことにつながります。



漆を育てる



苗木を植える → 育てる → 15年後、採取 → 伐採 → 再び、採取

毎年、地域の子供たちと植樹イベントを行っています。(京都府夜久野町など)

漆の木は弱く、大きく育てるのにも手間がかかります。

やっと漆を採取することができます

漆を採ったら伐採。

15年後、再び漆を採れるまでに成長。

新しい命が 生まれえます ひこばえ

伐採と15年かけて育てることを繰り返します。

漆は こうして つながります

漆を採る(漆かき)

毎年6月~10月の約5ヶ月で1本の木から約200ccの漆しか採れません!



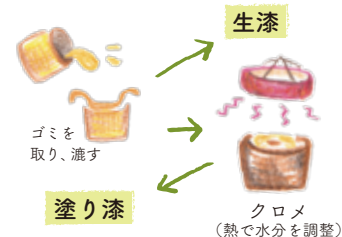
漆の木に傷を入れると傷を修復しようと樹液が出てきます。これが「漆」。

漆かきの道具

道具作りの職人さんは現在一人だけ!



漆を精製する(漆屋)



漆を塗る(塗師屋)

木を削った素地に、下地、中塗、上塗りをします。何度も塗り重ねて仕上げます。

販売

・漆器店・仏壇、仏具店
・家具店・美術工芸品など

・文化財修復
・社寺修復など

